



◇指導のねらい

個々にはではなく、小集団での読み聞かせの活動ができるようにしたいと考えた。視力・視野の程度に合わせて、一人ひとりが確かめる時間も取り入れていくようにする。弱視の幼児にも穴を触らせ、あおむしが食べてしまった様子を具体的に想像できるようにする。



◇指導の評価

視力のある幼児は「あかいのりんご。りんごたべた。」等と言いながら、顔を近づけてよく見ていた。真っ白いページにくっきりと絵が描かれており、手動弁程度の視力の幼児にも何か描いてあることがすぐに分かった。全盲の幼児はあおむしが食べて空いてしまった穴を確認し、「1こ、2こ、3こ。3こもたべちゃった！！」と嬉しそうだった。全盲・弱視混合の小集団での読み聞かせに有効だと感じた。

◇基本の使い方

読み聞かせの活動で使用。絵が大きいので弱視の幼児には何かが描いてあるということが分かりやすく、見ようとする。本に穴が空いている部分があり、全盲の幼児も自分で触って楽しむことができる。